



「エコシティたかつ」×「たちばな農のあるまちづくり」推進フォーラム
 「食べる 育てる in たかつ ～100年後のたかつのまちのために～」 開催結果

日 時：2010(平成22)年2月27日(土) 13:20～16:30
 場 所：高津区役所1階市民ホール
 主 催：「エコシティたかつ」推進会議
 「たちばな農のあるまちづくり」推進会議
 川崎市高津区役所
 来場者数：約270人



プログラム (司会：伊中悦子さん)

- ① 開会・打楽器アンサンブル「Klar」ミニコンサート
- ② 「エコシティたかつ」「たちばな農のあるまちづくり」2009年活動報告
- ③ 交流タイム・鶏だんご鍋の試食
- ④ ミニ講演「アースデイマーケットから始まる まちと農のリアルな出会い」
 嵯峨生馬さん (NPO 法人アースデイマネー・アソシエーション代表理事)
- ⑤ トークセッション「つながる 広がる 地参地笑！」
 進 行 田中友章さん (明治大学准教授／「エコシティたかつ」推進会議委員)
 話し手 小林茂登さん (西梶ヶ谷小学校校長／「エコシティたかつ」推進会議委員)
 森 清行さん (橘地区農家／「たちばな農のあるまちづくり」推進会議委員)
 佐藤正之さん (NEC インフロンティア株式会社環境管理センター長)
 川辺奈津女さん (区民ミニ・ガーデン副委員長／「エコシティたかつ」推進会議委員)
 コメンテーター 伊藤雅春さん (愛知学泉大学教授／「たちばな農のあるまちづくり」推進会議委員)
 嵯峨生馬さん
- ⑥ 記念撮影・閉会

トークセッション概要

旬な取り組みの紹介として、ミニ講演では、「アースデイマーケット」の設立・運営を行っている嵯峨さんより、市外の先進事例を紹介してもらい、後半のトークセッションでは、高津区内での様々な取り組みについて、話し手の皆さんから、話題提供を行っていただいた。また、コメンテーターの伊藤さんからは、世田谷での住民主体のまちづくりについての活動報告や、話し手に向けて、農家として産直に関わる気持ちや、学校や企業と連携するのはどうすれば良いかという質問があり、嵯峨さんからは、実際に高津でファーマーズ・マーケットを行う場合を想定した質問があり、意見交換を行った。

進行役の田中さんより、「おいしい」は活動を広げる原動力であり、「鶏だんご鍋」のおいしそうな臭いがかげるリアルな距離感がとれた高津区役所という場所は、多様な使い方の可能性があり、素敵な場所である。しかし、そういう「みんなの場所」は、様々な規制がかかっているのが現状であり、まちなかの様々な「みんなの場所」をみんなで使えるようにし、次のステップとしてその場で活動がつながっていくことができる。また、「エコシティたかつ」と「たちばな農のあるまちづくり」は、地域資源を活用したまちづくりという共通点があり、個別の取り組みをつないでいくことで、無限の可能性が出てくることがあげられた。

話し手の皆さんのトークポイント

小林校長先生

学校は情報が集まり、発信する場所。水と植物という良い教材を地域と一緒に活かす場所。総合的な文化の発信をしていく場所。学校という「場」づくりが大事。カリキュラムに関係のあるテーマは受け入れやすい。施設開放の可能性はあると思う。



森さん

直売は消費者とコミュニケーションが楽しいが、なかなか出張販売(出店)までは手が回らないのも現状。農家は人手不足。販売を手伝うボランティアさんがいればいいのでは。(嵯峨さん)



佐藤さん

企業にとっての環境活動として、環境に配慮した製品、事務所の省エネを行っている。地域の環境活動としては緑のカーテン、東高津小学校での環境学習、社員食堂から出る生ごみの堆肥化、農園の提供、野菜販売等を行っている。

川辺さん

緑のカーテンは「気持ちがいい」。区民ミニ・ガーデンを通じて、知らない人や農家さんとの関係が広がる。野菜づくりは趣味なので、あるときあるだけの希少品を栽培し店が開けるのは、大人のままごとのようで生きがいになるのでは。

